

「葉間経由に留置した VATS マーカーの安全性と有効性を検討する後方視的研究」 へのご協力の
お願い

ー平成 23 年 12 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日までに

岡山大学病院にて肺手術において術前に VATS マーカーを留置された患者様へ

研究機関名 岡山大学

責任研究者 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻腫瘍制御学講座

放射線医学分野 教授 金澤 右

分担研究者

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻腫瘍制御学講座

呼吸器外科学分野 教授 三好新一郎

岡山大学病院 放射線部

講師 郷原英夫

岡山大学病院 放射線科

講師 平木隆夫

岡山大学病院 放射線科

助教 藤原寛康

岡山大学病院 放射線部

助教 生口俊浩

岡山大学病院 放射線科

医員 松井裕輔

1. 研究の意義と目的

本院では平成 5 年より肺腫瘍に対するビデオ胸腔鏡下肺切除術（VATS といいます）の際に対象によっては腫瘍が小さく手術時に同定できないことを避けるため、マーキングのため VATS マーカーというものを術前に留置しています。留置ルートは術者と相談にて決めており、通常は切除肺のみを経由して留置していますが、腫瘍の場所によっては、他の肺を経由して留置したほうが切除する肺が小さくてすむことがあります。このような観点から、他の肺を介して VATS マーカーを留置された場合の成功の有無、安全性を調べさせていただいております。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

平成 23 年 12 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日の間に肺腫瘍に対するビデオ胸腔鏡下肺切除術（VATS）の術前にマーキングのため VATS マーカーを葉間胸膜経由で留置された患者様 11 人。

2) 調査期間：

平成 25 年 9 月開催の倫理委員会承認後から平成 27 年 3 月 31 日まで

3) 研究方法：

平成 23 年 12 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日の間に当院にて肺腫瘍に対して胸腔鏡下切除術を施行された患者様のうち、葉間胸膜経由で VATS マーカーを留置されたかたを研究者が診療情報をもとにデータを選び、留置が無事成功したか、合併症が生じなかったか、生じた場合は重篤度はどうであったかを評価いたします。

4) 調査票等：

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報には削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別、既往歴、腫瘍の組織、手術方法
- ・ 胸部 CT の検査データ

・

5) 情報の保護：

調査情報は岡山大学病院放射線科内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、平成 27 年 3 月 31 日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

＜問い合わせ・連絡先＞

岡山大学病院 放射線部

氏名：生口 俊浩

電話：086-235-7313 ファックス：086-235-7316